

図書館報

第四十九号



津山工業高等専門学校

巻頭言

善財童子

善財童子は奈良の西大寺にあります。原田は大学時代にある方から薦められて、灰谷健次郎さんの「兎の眼」を読みました。この本は新任教師の小谷先生が、児童の対応に苦慮しながら、夏休みに善財童子の美しい目を見て、あらためて児童に真剣に向き合う小説です。

原田と親友の岐阜高専の吉村先生はこの本を読んだことがきっかけで教員になりました。吉村先生は教員になる前に実際に善財童子を見に行き、原田も一度は見たほうが良いと言っていました。が、原田は教員になって30年以上経ちますが見ていませんでした。

昨年度、ラグビーの全国高専大会が奈良で開催されました。大会の応援がてらに西大寺に行き、善財童子を見てきました。本を読んだときは、大きな像だと思っていたのですが、実際は文殊菩薩を先導する子供の像で、にこやかに周囲に気を配りながら先導している小さな銅像でした。その清らかな眼に引き込まれました。小説を読んでいなければ、童子を見落とすぐらい小さな銅像でした。

読書は想像力と知識を与えてくれます。皆さんもスマホばかり見ないで、大いに図書館を利用し、想像力と正確な知識を獲得してください。



図書館長
原田 寛治

— CONTENTS —

先生お薦めの本……………	3
ブックハンティング新刊紹介……………	6
図書委員活動報告……………	8
交流会／図書委員お薦め本紹介……………	10
校内読書感想文コンクール……………	11
ご存知ですか、図書館の使い方……………	14

先生お薦めの本

先生から学生へのお薦めの本を紹介します



先進科学系 山口 均

『きみに読む物語』

ニコラス・スパークス (Nicholas Sparks) : 著

雨沢 泰 : 訳 (アーティストハウス)

原作 : The Notebook (Warner Books)

映画 : きみに読む物語

(ギャガ・コミュニケーション)

作家による朗読CD : The Notebook

(Time Warner Audio Books)

このストーリーは、ひたむきに一人の女性を愛する男性の姿を、若い頃の出会いから老齢、そして死に至るまでの時間を行き来しながら、詩的に綴った恋愛小説です。この本を読んだら、きっと一生のうちにこんな恋愛をし、結婚をし、そして歳をとりたいと思うようになることでしょう。読めば、心が洗われ、そして泣けます。

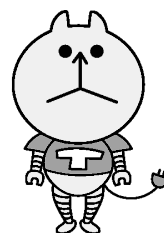
年老いた主人公の男性ノアが、老人ホームで一人の女性に、あるノートを毎日のように読み聞かせるところからストーリーは始まります。その女性は認知症を患い、ノアが誰かもわかりません。ノアは彼女に、毎日淡々とそのストーリーを話し続けます。彼が読み聞かせるストーリーは、波乱に満ちた恋愛物語です。それが何なのか、そしてなぜノアが読み聞かせをするのか、読み進めていくうちにだんだんと謎が解けてきます。

作者のニコラス・スパークスは、アメリカのベストセラー作家で、「メッセージ・イン・ア・ボトル」や「きみがくれた物語」など、彼の多くの作品が映画化されています。

そこで読書の楽しみ方ですが、気に入った小説を、翻訳、原作(英語)、映画の3方向から楽しむというのはどうでしょう。この

「きみに読む物語」の原作 The Notebook は割と平易な英語で書かれています。翻訳本を読んだ後、ある程度の背景知識を作ってから洋書にチャレンジすると、さらに読みやすくなるでしょう。さらに映画(DVD)です。原作と映画を比べて、どちらかにかかりすることもよくあることですが、この作品は映画もよくできています。もちろんある程度のストーリーの違いもありますが、映画ではとても美しいシーンが多々あり、本から想像しにくかったことが映像として再現されています。特にたくさんの水鳥が遊ぶ湖面を、二人を乗せたボートが静かに進んでゆくシーンは見事です。ノアが一人で作る家もとても美しく描かれています。さらにこの作品には作者自身が朗読したAudio Book(CD)もあります。原文と共に、今度は耳からストーリーを楽しむのも、より深く作品を理解できるとともに、英語の力を伸ばすことにも役立ちます。

この作品以外にも、同じような楽しみ方ができる作品がたくさんあります。参考にしてください。「シャーロットのおくりもの Charlotte's Web」「穴 Holes」「モーリー先生との火曜日 Tuesday with Morrie」など。



先進科学系 高木 賢治

『恍惚の人』

有吉 佐和子：著（新潮社）

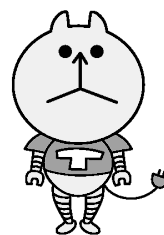
50代くらいの女性と認知症の舅^{しゅうと}（夫の父親）の介護の話だったと思う。旦那の話はほとんど出てこない。出版は1970年代。それから20年ほどしてこの本を手にとった私は、たった今、社会問題を風刺したのではないかと思うほど愕然とさせられる。20年たってもなお社会の問題、特に介護の問題は何一つとして解決されていないことに愕然としたのだ。家族の中で誰か一人に負担がかかる構造^{おぼ}。そのころ私は祖母とは別居しており、伯母（母の姉）が介護を全面的に引き受けていたが、自分の無力さを感じていた。すべての重圧を背負う伯母は何を感じて介護をしているのか。介護を受ける祖母は幸せなのか。そんなことを考えながら祖母を見舞った。それから10年ほどして祖母が他界。親類の中に介護が必要なものがいなくなると、問題は解決されたように感じた。少なくとも私は介護という社会問題から目を背けていた。

そして、現在36歳。自分にも家族ができて、母は古希を迎えた。高専の教員をしながら、将来親の面倒をどうするのか、自分が年老いたときにも思いを巡らせることになった。この点の描写も本にある。若い学生には、この気持ちはわからぬかもしれないが、この社会の構造は介護問題を解決するようには向かって



ていない。金銭的なつじつまは合うのかもしれないが、議論されるべきはそこではない。

20年も前に読んだ本の記憶だけを頼りに原稿を書いている。再読する時間すらない自分もどうかと思うが、50年近く前に書かれた本の内容がいまだに解決されていないことを突き付けられる気がして、その問題から目を背けていた自分への深い後悔から、この本を手を取ることができない。希望が持てる本を読むのは楽しいことであるが、すぐ忘れる。現実を突きつけられる本は、心のどこかでズキズキと自分に大事なことを示してくる。目をふさぎたくなるような本ではあるが、そろそろ再読せねばならぬ時期に私は来ていると思う。



機械システム系 関 一郎

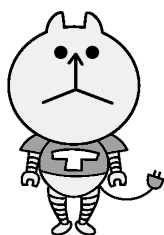
『金属の凝固』

Bruce Chalmers：著

岡本 平、鈴木 章：共訳（丸善）

私とこの本との出会いは私が大学生の頃まで遡ります。当時、卒業研究のテーマとして鉄鋼材料中に生成する介在物と呼ばれる脱酸生成物を評価するため、そのテーマに関連する書籍を探していたところ“凝固”と書かれたこの本のタイトルに惹かれ、この本を読むに至りました。しかし、当時の私にはこの本の内容を容易に理解することはできませんでした。今でこそ、この本に書かれている相図、いわゆるどの温度でどの成分の金属がどのような状態になるのかを示した地図の読み方や、それから読み取ることのできる金属組織について教壇に立って説明を行っています。このことを理解するまでには、この本を含め、類似の本を読み漁った記憶があります。

その様な本の中から、なぜ、この本を推薦するのか？ですが、この本は相図の読み方から金属組織の成長の仕方まで非常に丁寧に説明がなされており、さらに数式に頼った説明だけでなく、概念的な説明も丁寧に行われているので数式を理解することが得意でなくても興味を持って事象を理解することができます。例えば、金属の凝固組織として有名なデンドライト組織と呼ばれる木の枝状に成長する組織がありますが、これがどのような条件の下でどのような過程でどの様に成長するのかに至るまで順を追って丁寧に説明がなされています。この様に複雑な金属組織の生成過程をひとつひとつ理由付けして論理的に理解することの良さは、その事象をただ単に理解するだけではなく、例えば未知の現象に出会ったときにも同様にひとつひとつその現象に対して理由付けをすることができる様になり、新しい発見を論理的に尤もらしい説明を導くことができることにも繋がります。本書の内容は決して簡単ではありませんので初学者が内容を全て理解するのは容易ではありませんが、金属組織を学ぶ上で大切な“考え方”が書かれていますので研究対象として金属組織に関わる方に強くお勧めいたします。



主に、製品の性能決定・計算・試験・分析・評価等を行っており、それには、高専で勉強した専門科目や数学物理等の教科書やノートが役に立ちますが、そのすべてを机上に置いておくわけにもいきません。なぜなら、図面（製図はCADを利用しますが、現場での加工・組立等は、大きなものではA0サイズの紙図面を利用して行われます）・仕様書・計算書等を広げて仕事をするため、教科書やノートを置くスペースはないからです。本書は、全13章から構成されており、機械系専門科目や数学物理に加えて、電気電子・情報等、幅広い分野について記載されています。基本原理や式等が一冊にわかりやすく書いてあるため、本書を読めば基本的なことがわかる実務書となっています。また、付属の索引も詳細であり、実務をする上で必要なキーワードが網羅されているため、所望のページにすぐにたどり着くことができます。この充実した内容が、手のひらサイズに纏められているため、省スペースであり机上に置いても場所を取りません。本書が常に手元にあれば、必要なときにすぐに調べることができます。また、コンパクトな本書は、客先との打ち合わせや実地試験等の出張に持参するのも容易でした。当時使用していたのは前の第6版ですが、ハードに酷使したためか、ページ破れと背割れにより、私は3回購入しています（3代目の相棒です）。今回は、機械系技術者向けの紹介となってしまいましたが、各専門分野にも同様の本があると思います。このような実務書を1冊持っておけば、技術者として仕事を進めるうえでの強力な武器となります。

機械システム系 西川 弘太郎

『機械実用便覧』 改訂第7版

日本機械学会：編（日本機械学会）

学生へのおすすめの本の紹介を依頼されました。そこで、私は、技術者を目指す本校学生に本書を紹介します。私自身、高専のOBであり、卒業後は機械メーカーに就職して、技術者として設計開発に従事していました。



シュークリーム・パニック

倉知 淳：著（講談社）

『限定販売特製濃厚プレミアムシュークリーム』が盗まれた！容疑者は体質改善セミナーに参加した4人の男性とインストラクターの5人、一体犯人は誰なのか...推理小説好きの方におすすめの一冊です。

ブックハンティング

トコトンやさしいポンプの本

外山 幸雄：著（日刊工業新聞社）

ポンプは発電、上下水道、医療など幅広い分野で活用されています。もしポンプがなくなった場合、私たちは現代の文明的な生活を送ることが不可能になります。本書は現代社会の心臓部ともいえるポンプについて紹介したおすすめの一冊です。

オーロラの科学

上出 洋介：著（誠文堂新光社）

地球のカーテンといわれる美しいオーロラ。なぜオーロラは光るのか、どうして高緯度な土地でしか見ることができないのか、などのオーロラの秘密をこの本とともに探ってみませんか。

むらさきのスカートの女

今村 夏子：著（朝日新聞出版）

近所でちょっとした有名人の“むらさきのスカートの女”。そんな彼女を観察し追いかけている、自称“黄色いカーディガンの女”である〈わたし〉。

〈わたし〉は彼女とともにだちになるために、〈わたし〉の職場で彼女が働き出すように誘導する。そしてまた観察を続けるのだ。不気味な読了感におそわれる、第161回芥川賞受賞作。

いまさら流体力学？

木田 重雄：著（丸善）

私たちの身の回りの現象はすべて流体力学が関与しています。本書ではこれらをはじめとした様々な現象を取り上げて原理を一つずつ解明していきます。流体力学の基本的な考え方や解析手法が分かるおすすめの一冊です。



新刊紹介

論破力

ひろゆき：著（朝日新聞出版）

「あの時、ああ言っておけば良かった」、「嫌いな先輩を論破したい」。そんな経験、ありませんか？ニコニコ動画や2ちゃんねるを開設した西村博之氏が送る、相手の論述の穴を突くためのノウハウが纏まった一冊。

渦 妹背山婦女庭訓 魂結び

大島 真寿美：著（文藝春秋）

浄瑠璃好きの父の影響でその面白さを知った。近松の硯を拠り所に、書いて書いて、何度も先を見失い、それでも書くことに戻ってきた。産まれてから死ぬまで全て人形浄瑠璃の“渦”に吞まれ、呑み込んだ人生。

名作「妹背山婦女庭訓」を生み出した作家、近松半二の生涯を描いた第161回直木賞受賞作。

小説 天気の子

新海 誠：著（KADOKAWA）

映画化され、大ヒットした作品です。

離島から家出し、東京にやってきた帆高と、ある事情を抱え、弟とふたりで明るくたくましく暮らす少女のお話。天候の調和が狂っていく時代に、運命に翻弄される少年と少女が自らの生き方を選択するストーリーです。

マンガでわかる 生化学

武村 政春：著（オーム社）

難しい化学で心を痛めて図書館まで足を運んだ本校の学生はいらっしゃいますか…？

そんなあなたにおすすめする、マンガでわかるシリーズの一つがこちら。

まんがでわかる 頭に来てアホとは戦うな！

田村 耕太郎：著（朝日新聞出版）

人間関係を思い通りにし、最高のパフォーマンスを実現する方法が書いてあります。相手に対しての接し方や、自分に対する考え方まで全てが覆される本だと思います。自分自身を見つめ直すきっかけになるのではないのでしょうか。

図書委員活動報告

図書委員は、弥生祭等催し物班、読書感想文コンクール班、ブックハンティング・交流会班、図書館報班の4班に分かれて活動しています



弥生祭等催し物班



弥生祭にて私たち図書委員会は、古本市を行いました。古本市は、先生方や学生から頂いたさまざまな本を無料で配布する出店です。また、オリジナル葉を作ることのできる葉作成コーナーも設置しました。今年度の弥生祭では、100冊近くの本が、先生方、学生から頂いたため、多くの来場者に本を差し上げることができました。弥生祭終了時には、頂いた本のほとんどがなくなり、大盛況でした。もちろん、葉作成コーナーも多くの方々に喜んでいただくことができました。

必要物品の買い出しや、当日のシフトなど、特に大きな問題なく無事に成功させることができたので良かったです。（情報システム系4年 吉澤 聡馬）

私たちは読書感想文コンクールについて企画や広報、実施、採点などに取り組んできました。昨年度に比べ、書式を自由にしたり、字数の下限を少なくしたりしました。それにより90編を超える応募を頂きました。応募して頂いた皆様には大変感謝しております。

読書感想文コンクール班



1～3年生は国語の課題に含めて頂いたこともあり多くの応募が寄せられました。一方、4・5年生からの応募はあまりなかったため、今後の課題としていきたいです。

様々な作品に触れられてとても有意義な時間となりました。来年も是非ご応募ください。

（先進科学系4年 大田 俊紀）

ブックハンティング・交流会班



私たちの班は今年2つの活動を行いました。

1つ目はブックハンティングです。8月に岡山市の宮脇書店を訪問し、班員がそれぞれ30冊ずつ任意の本を選びました。

この度購入した本は津山高専の図書館に格納される予定です。学生の皆さんの役に立つ本が数多く追加されたので、ぜひとも図書館にお越しください。

2つ目は他校との交流会です。12月14日に美作大学にて、津山高校、美作大学の学生の方々と交流会を行いました。お互いの活動内容を事細かに知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

(先進科学系2年 菅原 泰生)

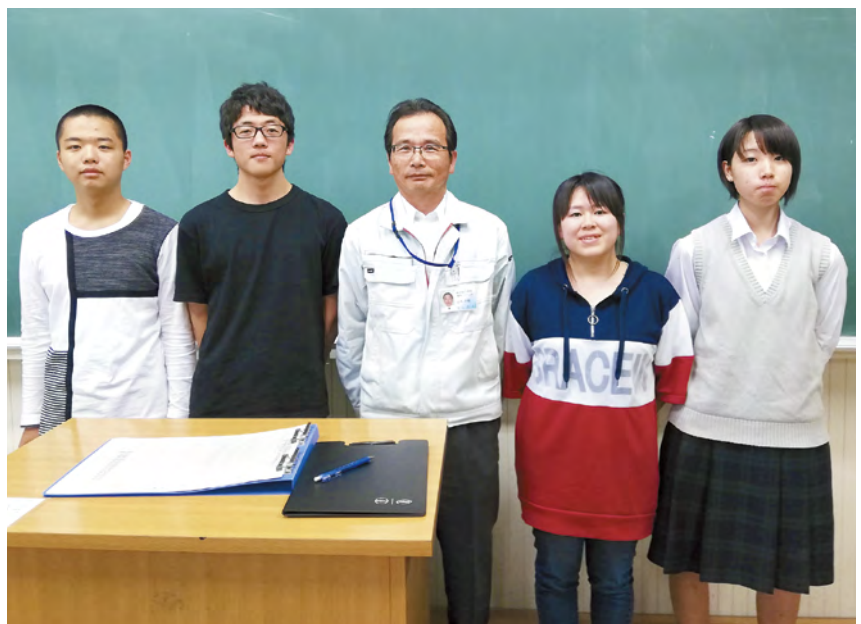
図書館報班

私たち図書館報班は、本や図書館の魅力を多くの人に届けたくて、本館報の作成活動を行ってきました。

本館報は、掲載する内容を決め、先生方への執筆依頼、表紙イラストの作成依頼、各班に活動報告の依頼など、様々なことを班員で分担して作成しました。本館報には、それだけ多くの方が関わっており、図書委員はもちろん、図書委員でない方の協力があったからこそ完成しました。

本館報を、皆様にお届けできていることを嬉しく思うとともに、作成に協力して下さった全ての方に感謝申し上げます。

(電気電子システム系4年 矢田 哲也)



交流会が 開催されました

令和元年12月14日(土)に美作大学で、津山高校図書部、美作大学図書館ボランティア、本校図書委員の第9回交流会が開催され、20名(学生16名、教職員4名)が参加し、各校の活動報告や施設見学、レクリエーションなど



が行われました。レクリエーションでは各グループに分かれて、条件を設定した本を探すゲームをするなど、他校の学生と図書を通じてとても有意義な交流を行うことができました。

来年度以降も同様の機会があれば、図書委員になった学生のみなさんはぜひ参加してみてください!!

図書委員 お薦め本紹介

百年法

山田 宗樹：著 (KADOKAWA)

国難を迎えた日本に投げかける衝撃の問題作。6発の原爆が投下された日本で、ある法律が制定された。通称「百年法」。新技術で不死を与えるかわりに、100年後に死ななければならないというが…。

日本の決断を描く、エンターテインメント大作。

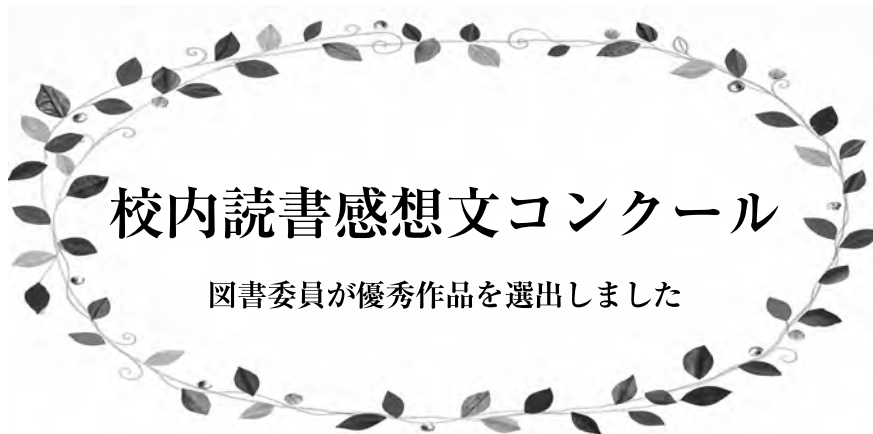
キケン

有川 浩：著 (新潮社)

とある工科大学にある、「機械制御研究部」というサークル。ここは、過去の活動や伝説から「キケン」と称され、一般学生等からは避けられていた。

そんなサークルに入った新入生が「爆弾魔」や「大魔神」とあだ名される先輩たちに振り回されながらも「キケン」に染まっていく、その過程を見る一冊です。

高専生ならきっと共感できる場面もあるはずです!



校内読書感想文コンクール

図書委員が優秀作品を選出しました

第1位

「そして、バトンは渡された」 を読んで

電子制御工学科5年 長尾 昂樹

あと1か月で人生のターニングポイントとなる、大学受験を迎える大事な局面で私はこの作品に魅了された。受験が近づくにつれて精神的な疲労により、自暴自棄になり現実逃避したくなる私は精神の安定化を図るため、本屋大賞を受賞し、読んだ後に幸福感に包まれると噂されるこの本を手にとった。

この作品の主人公の優子は父親が三人、母親が二人いて家族形態が十七年間で七回も変わるという特殊な環境で生きてきた女子高生である。これだけ大変な環境で育つと、当時の私のように精神的に不安定状態が続き、普通の生活とかけ離れたような苦労が強いられる生活を送っているのかと想像して読み始めたが、優子の生活は私の予想を大きく上回った。優子は家族形態が変わることは多かったが、変わった先の人みんなからたくさん愛情を注がれて生きてきたおかげでとても幸せに生きてきたのだ。身近な人からたくさん愛情を注いでもらっている優子に、羨ましい気持ちを募らせて読んでいた最中、私も両親やそれ以外の多くの人からたくさんの愛情を注がれて生きていることに気が付いた。

本作の中でも特に印象に残った。

受験勉強に明け暮れ、路頭に迷っていた私もこの本に出会い、自分は多くの人に支えられているということを思い出し、鬱病気味だった精神状態も徐々に回復基調へと転じた。

この本を読んだお陰で、両親を始め、高専の先生、先輩、クラスメイト、寮の友達、後輩などからたくさんのエールという名の愛情を注がれていたことに気づき、一人じゃないという安堵感に包まれた。

また、本作三番目の父が「自分の明日と、自分よりたくさんの可能性と未来を含んだ明日が、やってくる。親になるって、未来が二倍以上になる」というセリフがあった。私はこの作品に大きな幸福感を覚えた。決して共感できる内容ではないが、私の両親も同じように感じて見守ってくれていたと考えた時、幸福感を感じられずにはいられなかった。こうして、親から注いでもらっている愛情や、育て上げた未来が、また次へとバトンを繋いでいくのだと思う。

この本を読み始める少し前の時期に、父が私の受験を応援したいからと言って、受験する大学の近くのホテルと一緒に前泊しようと提案していた。正直この本を読み始める前は、もう子供じゃないし、余計なお世話だなどと思っていた。しかし、この本を読んで、父の私を応援したいという気持ちと私に対しての深い愛情をととても強く感じるようになったため、私は本を読む前は渋っていた提案を快諾した。優子も大学受験の前日に義父から不器用ながらも一生懸命なエールを受けていたので、優子の義父と私の父を重ねてしまったのかもしれない。

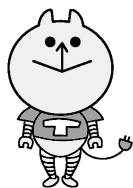
そして、受験前日。父と宿泊予定のホテルへ向かう途中、本屋でこの本を目にした。その時、この本をぜひ両親へ読んでもらいたいという気持ちになり、父の日というこじつけとともに、この本をプレゼントした。いつも私は本を読んだ後、面

白かった本を色々な人に伝えて回り、感想を言い合い語り合うのだが、今回は両親にこの本を読んでもらい、両親が読んで感じたことを非常に聞き取った。

私はこの本を優子という娘の視点でしか読むことができていないため、大人になり子供ができた時にもう一度読み、親の目線でこの本を楽しみたいと思う。きっと今感じている幸福感とは違った、親になってからでないと分からないものを感じるはずだ。

誰かに愛情を注がれて生きている人たちは、自分が愛情を注がれていると分かった時、とても幸せに感じる。もし、今が辛くて、逃げ出したい、生きていくことがしんどいと思ったときは周りを見てほしい。きっと、愛情を注いでくれる存在がそこにいるから。

（瀬尾 まいこ「そして、バトンは渡された」）



第2位

思いやりの心と目標を持って

1年4組 三加 悠月

私はこの本の主人公の「僕」は幸せ者だと思った。三十歳で死んでしまう僕を幸せ者だと思う人はいないかもしれないが、私がそう思ったのには理由がある。

この本は余命宣告をされた僕が、生きるために悪魔と交換条件として世界からいろいろなものを消していく話だ。僕は電話、映画、時計を順番に消していった。ところが、猫を消すという選択はしなかった。僕は気づけたのだ、大切な人やかけがえのないものに。そして「ただ生きることには意味がない。どう生きるかに意味がある。」とも言っていた。私はこの言葉にドキッとした。私は一日一日を大切に生きて過ごしているのだろうか。毎日楽しいことは確かだが、意味のある生き方が出来ているとは言えないと感じた。例えば、学校で課題が出たとする。本来ならば、その課題の目的に沿って学習をするはずだ。しかし私は、課題をこなすことしか考えていない時期があった。筋

トレだってそうだ。ただこなすだけの場合と目標や目的を考えながらする場合とを比べると効果には大きな違いが生まれるだろう。

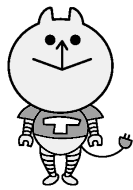
悪魔の言葉は、人間の持っている弱さの象徴のようだ。自分さえよければそれでいい。周りや他の人なんて自分には関係ない。私はそんな自己中心的で自分勝手な考え方では駄目だと改めて考えさせられた。

この本では、大切な人「家族」についても深く考えさせられた。僕の母さんは、すべての時間を父と僕のためにささげていた。母さんは思いやりのある心を持った人だと私は思った。自分がもう少ししたら死んでしまう、残り僅かな時間でさえも自分のために使わず人のために使おうとする。私もそのような心の持ち主になりたいと思った。今、私は高校へ通うため、祖父母の家で暮らしている。そのため、家族とは週末にしか会うことが出来ない。せっかく会えたときでも、私は恥ずかしがり屋なのか、「ありがとう」という感謝の言葉が口から出てこない。父も母も、私のことを心配して応援してくれている。その父と母の優しさと愛情は当たり前のもではなく、父と母の思いが込もっていて、世界に一つしかない。私は考えればすぐ分かるようなことにも気づいてなかった。この本の中で「大切なことは失って初めて気づく」という言葉がよく出てきた。確かにその通りだ。もし私が父や母から心配されなくなったら、応援されなくなったらと考ええると、とても寂しいなと思った。普段は、父や母の言葉の価値や自分が恵まれていることに気づけないが、この本を通して私は幸せ者なんだと知れた。

最初にも述べたように、僕は幸せ者だと思う。なぜなら、最後の最後だったけれども、大切な人やかけがえのないものに気づき、思いやりの心を持ったからだ。

私はこの本を読んで、自分がこんな状況だったらどうするのだろうかと考えることが出来た。読む前は、世界からあるものを消すなんてありえない話だと思っていたのだが、読んでみるとすごく身近な話に感じた。私はいつ終わるか分からないこれからを思いやりの心と目標を持って生きていきたいと思う。

（川村 元気「世界から猫が消えたなら」）



第3位

平和と戦争

1年3組 奥山 沙笑

日本が戦争をしていた頃、宮部久蔵は臆病者として知られていた。優秀な戦闘機乗りでありながら、戦闘に消極的だったからだ。彼は自分の戦死によって、家族が大変な思いをすることを懸念していた。家族の為に自分は生きなければならない。実に家族思いで思いやりのある人物だ。しかし当時は、それが許されなかった。国のために命を捨てることが誇りであり当たり前という時代であった。確かにこの時代に宮部の言動はそぐわない。だから私は、この時代に限ってはどちらの意見が正しいのか答えが出せない。無論、現代では何の為に命を最も大切にせねばならない。しかしそうでなかった当時の人々の思いは、戦争を経験していない私達が本当の意味で理解できそうもない。ただ一つ分かるのは、自ら望んで命を捨てたり、国の為になると考えていた人はいないだろうということだ。死に恐怖を感じない人なんていない。それでも本心とは反対の行為をとらねばならない、それが戦争だ。自分を押し殺し、一度きりの人生を思うがままに生きられない。そんなことがあって良いのだろうか。いや、良いはずがない。

自分の本心を貫き言葉にすることすら難しかったこの時代。それでも、宮部は信念を貫いた。家族という、守りたい存在の為に命を大切に思った。また、その信念を他人へも伝え続けた。彼の言動に不満を抱く人は数多くいた。しかし後に、そんな彼の言動で心を動かされる人も出てくる。それはやはり、彼が強い気持ちを決して曲げなかったからに違いない。私は宮部を臆病者とは思わない。実に強い人であると思う。伝わらない気持ちを言葉で、行動で伝え続けた彼はどんな思いだったのか。考えると胸が痛む。

そんな宮部が突然、自ら特攻に志願する。特攻は自らの命を捨てる攻撃だ。生きなければと考え

ていた宮部が何故そんな行動をとったのか、私は驚きを隠せなかった。家族思いで自分を貫き続けた彼の死が、私は無念でならない。だがやはり、宮部は宮部だった。彼は最後まで自分を貫いた。教官だった彼は、出撃前に教え子の機体に手紙と家族の写真を残した。妻と子に、生まれ変わっても帰ると約束した。教え子に妻と子を託したのだ。どんな状況でも家族を、大切なものを最後まで思い続けた彼の姿に、私は胸を打たれた。と、同時に思った。生きたいと望んでも、生きられない、口に出せなかった人。ただ帰りを信じて待つしかなかった人。それが叶わなかった人。そんな彼らのような人をつくってはならない、こんな悲しい思いを繰り返してはならないということだ。

今もなお、世界各地で戦争は続いている。多くの尊い命が、毎日犠牲になっていく。人はいつか必ず死ぬ。しかし、戦争でその命をなくすことはあってはならない。それはあまりにも酷く、悲しい。何故何の罪も無い人間の命が、同じ人間によって死ななければならないのか。そもそも何故戦争が起きるのか。領土問題や民族の違い、様々な根深い原因があるだろう。しかし戦争を起こしたところで何の解決にもならない。残るのは後悔と、多くの犠牲者が出たという事実、そして生き残った人の、消えることのない心の傷だけだ。だから戦争を、人間として生まれた以上、世界共通の問題として捉え、全員で考えていかねばならない。そして、戦争をなくす為の行動に移していくべきなのだ。

小・中学校の平和学習では、広島や長崎、沖縄を訪れ、語り部の方の話聞いた。私はこれらの学習を通じて、戦争の恐ろしさを肌で感じ、こうして平和に生活しているありがたみを痛感した。戦争で亡くなった人々が報われることはない。

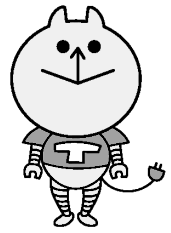
平和と書いたが、毎日自殺や殺人で命が消えていく。戦禍の中、非業の死を遂げた当時の人々が、今を見てどう感じるだろう。これが彼らが本当に望んだ未来なのだろうか。

多くの尊い命を奪い合う戦争など、私と同じ世代の若者が戦場へ赴き犠牲となる戦争など、二度と起こしたくはない。今の日本を生きる私達の責任、それは戦争を語り継ぎ風化させないこと、そして尊い命を無駄にせず、彼らの分まで精一杯生き抜くことだ。

(百田 尚樹「永遠の0」)

ご存知ですか、図書館の使い方

ぜひ積極的に図書館を利用しましょう



学習のための多様な活動空間

- 専門書、一般書、小説
- 電子ジャーナル、データベース
- パソコン、プリンタ
- インターネット、校内Wi-Fi
- 広い机、ホワイトボード
- ミーティングルーム



本を借りる

 貸出期間は2週間、貸出冊数は5冊で、貸出には学生証が必要です。

 返却は図書館カウンターもしくは寮のブックポストに返却してください。

Topics!



図書館ツイッターやっています。
@TsuyamaKosenLib



図書館にある本を探す

 蔵書検索（OPAC）で請求記号を調べて、その記号の書棚の場所に行きましょう。

 書棚の本は分野別に並んでいるので、興味がある分野の書棚を探してみましょう。

市立図書館の本を取り寄せる

 市立図書館蔵書検索（OPAC）で予約し、受取場所を本校に指定しましょう。



Topics!



図書館のミーティングルームには寄贈された備前焼の蘭引（らんびき）が展示されています。蘭引とは江戸時代に使用された蒸留器で、酒や水を蒸留して精製し、アルコールや蒸留水を得るための道具です。



本をリクエストする

📖 学生希望図書の申込用紙を図書館カウンターに提出しましょう。

論文を調べる

📖 図書館WEBサイト記載の電子ジャーナル・データベースを利用してみましょう。

過去の卒業研究を閲覧する

📖 全て図書館に所蔵しているわけではありませんが、多くの卒業研究が図書館奥の集密書架にありますので、探してみましょう。なお、一部を除き持出・複写不可です。

パソコンを利用する

📖 PCは総合情報センターアカウントでログインして使用します。

📖 プリンタは両面印刷可能で、カラー印刷はできません。節度ある利用を心掛け、安易な大量印刷は控えましょう。

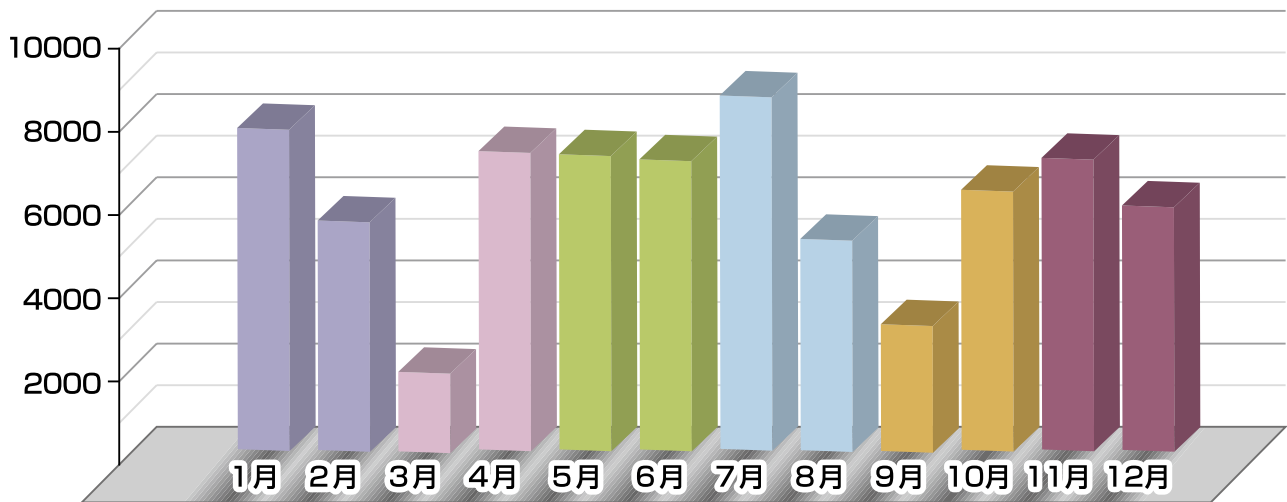
📖 ノートPCを図書館カウンターで貸出しています。

📖 校内Wi-Fiの使用は総合情報センターでの申請が必要です。

グループで学習する

📖 ミーティングルームが利用できます。図書館カウンターで予約、申し込めましょう。

入館者数 2019



貸出ランキング 2019 (期間：2019年1～12月)

No.	書 名	著 者	出版社
1	編入数学徹底研究	桜井 基晴	聖文新社
2	公式TOEIC Listening & Reading問題集	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会
3	実践OpenCV 2.4 for Python	桑井 博之、豊沢 聡、 永田 雅人	カットシステム
4	物理	三浦 登 ほか	東京書籍
5	電気化学	渡辺 正 ほか	丸善

編集後記



図書委員会に入り二年目の今年、図書館報作成の班長を担当させていただきました。もともと読書することが苦手だった私ですが、高専に入学後、図書館を利用することが多くなり、読書に魅力を感じるようになりました。読書の魅力は、自分が経験したことのないことを、本を通して経験できることだと思います。

本館報の作成にあたり、先生方や班員から、本に対する考えを聞き、読書にある様々な魅力を知ることができました。まだ読書に魅力を感じていない方も本館報を通して、読書のもつ魅力に気づいていただければ幸いです。

最後になりましたが、原稿依頼を快く引き受けて下さった先生方、本館報を作成するにあたり、ご協力くださったすべての方にお礼申し上げます。

(電気電子システム系4年 矢田 哲也)

発行

独立行政法人 国立高等専門学校機構
津山工業高等専門学校図書館